

日時：令和6年9月10日（火）午後3時～  
場所：和泉市役所 3階 庁議室

## 第2回和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会

### 次 第

#### 1. 開会

#### 2. 前回の議論のふりかえり

#### 3. 議題

- (1) 運営ビジョン作成に向けた基礎調査等の経過
- (2) 使命(ミッション)案、基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案
- (3) 先行的取組ワーキンググループ会議について

#### 4. その他

- ・次回開催日：  
令和6年10月22日午後3時～午後5時(終了予定)  
場所 和泉市役所 5階 5A会議室

#### 《配布資料》

- 資料1 第1回委員会論点別委員意見整理
- 資料2 基礎調査経過報告(アンケート調査概要、学芸員ヒアリング調査)
- 資料3 使命(ミッション)案、基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案
- 資料4 先行的取組ワーキンググループ会議

## 第 1 回和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会 論点別委員意見整理 (240724)

論点/要素	各委員意見
項目①(使命)	美術館が社会に向けて発信する新たな価値と役割とは？
—	<p><b>○地域への貢献、相互の交流、コミュニケーション</b></p> <p>【松本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>地域への貢献、一体性、住民参加</u>が美術館・博物館運営のキーワード。</li> <li>・ 今後の在り方の基本姿勢として、美術館からの一方通行はあり得ないので<u>地域社会と相互の交流を図りながら新たなものを創造する拠点</u>となる、そういう言い方がふさわしいと考える。文章に「<u>体験</u>」というキーワードも盛り込んで。</li> <li>・ ①②の文章は表現については、上記を踏まえ改めて頂くと良い。</li> </ul> <p>【井上委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本博物館協会が出した「<u>対話と連携の博物館</u>」、<u>多方向で様々なコミュニケーションを取りながら考える美術館</u>というのもあり得る。</li> </ul> <p><b>○福祉分野との連携</b></p> <p>【松本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上段の上から3つ目の黒四角の<u>福祉に関する文章を③</u>として入れる。</li> </ul>
項目②(基本方針)	10年後、美術館が目指すべき姿とは？
—	
項目③(コンセプト)	目指すべき姿を達成するために取り組む具体的施策とは？
1. 美術品の収集・保管 4. 広報発信	<p><b>○1.2万点の収蔵品、価値のPR</b></p> <p>【松本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 久保惣記念美術館の<u>価値を市民が十分知らない</u>。<u>1.2万点の収蔵品(京都国立博物館は1.5万点)だけでなく活動</u>としても頑張っている。これだけの物を収蔵していることをアピールすることが必要。</li> </ul> <p>【井上委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東洋陶磁美術館の作品のキャプションに、<u>久保惣記念美術館の青磁「万声」</u>のことが書かれているが、本家本元である久保惣記念美術館が知られていない。<u>日本史の教科書の口絵にも久保惣記念美術館の収蔵品が使われている</u>。</li> </ul>
4. 広報発信	<p><b>○万博を契機としたプロモーション</b></p> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 万博を見据えてJRグループと連携して「<u>大阪ビジットキャンペーン</u>」を国内で行う。旅行会社に観光コンテンツを作って頂くことになっており、南部では久保惣記念美術館も対象。<u>万博に来たお客様を府域の中で周遊ができるような取組強化</u>を考えている。</li> </ul>
5. 連携協力	<p><b>○ボランティアの在り方</b></p> <p>【松本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験型、市民参加型とも関連して<u>ボランティアの在り方も広く位置付けても良い</u>のではないかと。</li> </ul> <p>【大西委員】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と人と美術館の関係考える中で、東京都の美術館が<u>ボランティアを重視して活動をしていることが一つのモデルケース</u>。報酬はないが、入館料無料で、ボランティア向けの講座を無料で受けられ、<u>参加する人が元気になれる</u>。</li> </ul> <p><b>○和泉市商工会議所、地域企業との連携</b></p> <p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和泉商工会議所所属の<u>事業者とのコラボ</u>。例えばお客様が来たら和泉市の顔として久保惣記念美術館を案内する等。</li> </ul> <p><b>○ふれあい体験事業の在り方(小学校との連携)</b></p> <p>【久保委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初、父がフランスに行き学校の<u>先生が生徒に教える風景を見たことが原点</u>。美術館はまちのものであり、市民のものという趣旨でスタート。</li> <li>・ 将来的に<u>教えるのは学芸員から小学校の先生へ移行していくというコンセプト</u>であったが、現実とのギャップが埋まっていない。</li> </ul> <p><b>○大学との連携</b></p> <p>【大西委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 桃山学院大学は久保惣記念美術館の近くにあつて、美術館と大学の連携は今もしているが、もっと<u>密接な関わり</u>があつても良いのではないかと。</li> </ul> <p><b>○福祉分野との連携</b></p> <p>【大西委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>福祉との連携</u>を取っている美術館もある。人件費の問題もあるが、月曜の休館日に気兼ねなく障がい者が来館できる取組をしているところもある。</li> <li>・ 観光と絡めてインバウンドの方から吸収し、<u>子どもから高齢者までの福祉への取組に還元するやり方</u>もある。</li> </ul> <p>【井上委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北名古屋歴史民俗博物館、<u>地域ケア「回想法」の活動拠点</u>ともなっている。ミュージアムは<u>医療や社会福祉の現場においても貢献</u>できる。</li> <li>・ 美術館は小さな子どもから高齢者までコレクションから刺激を受け、<u>自分の人生を豊かにできる場</u>でもある。</li> </ul>
6. 地域活性化、交流促進、観光	<p><b>○市民創作教室の在り方、体験</b></p> <p>【久保委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の時流、キーワードの一つに<u>体験</u>がある。開館当初からのコンセプト。</li> <li>・ <u>地域の美術館として著名な美術館との違いをどう出していくか</u>。<u>新しい利用者を増やし、美術館と一帯でどう繋げるのか</u>を考えるべき。</li> </ul> <p><b>○インバウンド戦略としての体験</b></p> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍後は少人数で興味が湧いたもの、<u>日本でしか体験できないことに関心</u>が移っている。<u>浮世絵版画摺りの体験</u>など入館者を増加させる施策の一つになる。</li> </ul> <p>【大西委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>地域との連携</u>、<u>和泉市の人材バンク</u>には琴や絵画をされる方等が登録されているので活用ができるのでは。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>和泉府中駅近くに<u>サテライト施設</u>を設ける。</li> </ul> <p>【井上委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>京都、大阪に流れている人を<u>和泉市、久保惣記念美術館に呼び込む方策</u>が必要。</li> </ul> <p>○<b>飲食の体験</b></p> <p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レストラン、<u>美術展と関わるようなメニュー</u>があると良い。</li> </ul>
7. 経営、環境、施設整備	<p>○<b>人の手当て、人材確保</b></p> <p>【松本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何かをすると<u>お金と共に人も必要</u>である。美術館側としては業務量が増えるのではと懸念もある。<u>職員・人の手当て</u>、人との交流等の視点にも触れる。</li> </ul> <p>【井上委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国大学博物館学講座協議会でも<u>学芸員の人材確保が問題</u>になっている、ビジョンにも視点として盛り込む必要がある。</li> </ul>
その他	<p>○<b>施策の優先順位</b></p> <p>【松本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論点シートに書かれていることは、10年という期間ではどこがやっても難しいと感じるので、<u>優先順位をどう付けるか</u>が必要。</li> <li>絵に描いた餅にならないよう、<u>実効性をどう担保</u>するか。</li> </ul> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10年後の美術館がめざすべき姿、久保惣記念美術館が50周年を迎えるタイミングということは理解できるが、<u>10年間でやる内容としてはタイト</u>に感じる。</li> </ul>

## 1. 類似美術館を対象としたアンケート調査(事例調査)

## 目的

久保惣記念美術館運営ビジョンの策定に伴い、類似美術館の運営・取組状況を把握することで、久保惣記念美術館の取組方針(コンセプト)や今後の取組内容に活かしていくことを目的に実施する。

## 対象の抽出

## 【抽出条件】

- ・ 全国の公立・私立美術館のうち**収蔵点数**、**立地条件(最寄り駅からの距離)**が比較的近い美術館を抽出

## 【抽出方法】

- ・ **ステップ①**：文部科学省令和3年度社会教育調査の美術館数をベースに、文化庁のデータベース等から公立(国、国独立行政法人を除く)、私立美術館を抽出。**⇒公立243件、私立149件抽出。**
- ・ **ステップ②**：上記から抽出条件(**収蔵点数**、**立地条件(最寄り駅からの距離)**)毎に、美術館を絞り込み。

## ①収蔵点数

	公立美術館	私立美術館	備考
1000点未満	42	33	
1000点以上～5000点未満	83	45	
5000点以上～1万点未満	20	8	公立：新潟県立万代島美術館、新潟県立近代美術館は収蔵品を共有のため重複してカウント
1万点以上	20	12	公立：久保惣記念美術館を含む
不明	78	51	
合計	243	149	

- ・ 5000点以上を収蔵する美術館は公立40件、私立20件、計60件。
- ・ 不明(公表していない等)を含むと公立118件、私立71件、計189件。

## ②最寄り駅からの距離(直線距離)

	公立美術館	私立美術館	備考
1km未満	88	66	
1km以上～2km未満	64	30	公立：久保惣記念美術館を含む
2km以上～3km未満	39	14	
3km以上～5km未満	22	12	
5km以上	30	27	
合計	243	149	

- ・ 3km未満に立地する美術館は公立191件、私立110件、計301件。

③最寄り駅からの距離(直線距離：3km未満)×収蔵点数

公立美術館

	1000点未満	1000点以上～ 5000点未満	5000点以上～ 1万点未満	1万点以上	不明	合計
1km未満	14	33	9	10	22	88
1km以上～2km未満	7	26	7	4	20	64
2km以上～3km未満	7	12	2	3	15	39
合計	28	71	18	17	57	191

- 最寄り駅から3 km未満かつ1000点以上の収蔵点数を有する公立美術館は106件、不明を含むと163件。

私立美術館

	1000点未満	1000点以上～ 5000点未満	5000点以上～ 1万点未満	1万点以上	不明	合計
1km未満	14	19	7	6	20	66
1km以上～2km未満	8	12	1	1	8	30
2km以上～3km未満	3	2	0	1	8	14
合計	25	33	8	8	36	110

- 最寄り駅から3 km未満かつ1000点以上の収蔵点数を有する私立美術館は49件、不明を含むと85件。

調査対象案

- 1000点以上の収蔵点数を有し、かつ最寄り駅から3 km未満の公立・私立美術館を対象とする(不明を含む)。
- 対象数：公立163件、私立85件、計248件。
- その他、上記に含まれない美術館で今後の取組の参考となり得る先進的取組を実践する美術館も対象とする。

## 調査項目

参考：博物館総合調査(公益財団法人日本博物館協会) ※アンケート票案は別添

大項目	設問項目
I. 館の基本情報	1. 館の名称 2. 開館年月 3. 館の特性(ジャンル) 4. 館の設置者 5. 運営形態 6. 館としてのビジョン(独自の目的・使命)の設定の有無 7. 令和5年度の来館者数 8. 来館者数増加に向けた取組・成果 9. 収蔵点数・内訳
II. 組織人員・体制	10. 職員等の人数・内訳 11. 職員研修の実施・実施機関 12. ボランティアの運営への参画 13. 業務効率化に向けたデジタル化の取組・成果
III. 施設	14. 建物の建築年、リニューアル時期 15. 設備、老朽化の問題・状況・リニューアル予定・具体的な課題 16. 収蔵庫の状況(利用状況、環境設備) 17. (公立館のみ)「公共施設総合管理計画」の中での位置づけ
IV. 企画展	18. 特別(企画)展の開催の有無・開催頻度・平均的な費用・近年最も多かった企画展の内容とその時の広報の工夫 19. 近年に実施した貸出展の実施件数
V. 体験	20. 体験型の取組の実施の有無・近年実施した独自の取組内容や工夫している点、今後実施予定の取組
VI. 観光インバウンド対応	21. 観光インバウンド対応の取組の実施の有無・取組内容・成果・今後実施予定の取組等
VII. 広報・情報発信	22. 広報発動の取組内容・成果・うち有償の取組・今後実施予定の取組等
VIII. 地域、企業との関わり	23. 地域や企業との取組・今後実施予定の取組・連携・協力する館外各種団体の有無・今後の具体的連携等
IX. 回答者の属性	24. 名前、所属、電話番号、メールアドレス

## 実施時期

発送：令和6年9月中旬、回収：10月上旬(予定)

## 2. 久保惣記念美術館運営ビジョン策定に向けた学芸員ヒアリング調査

### 目的

- 久保惣記念美術館運営に最前線で携わる学芸員からの聞き取りを踏まえ、運営ビジョンのミッション(使命)、ビジョン(基本方針)、コンセプト(取組方針)、取組の優先順位について整理を行う。
- 今後10年を目途としたビジョンの推進主体である学芸員の意向を反映することで、実行性が高く、主体性のあるビジョンを策定する。

### 対象

久保惣記念美術館学芸員 4名を対象に集団ヒアリング(8/31時点)

### 実施時期

令和6年8月16日(金)15時~17時・8月31日(土)15時~16時 2日間

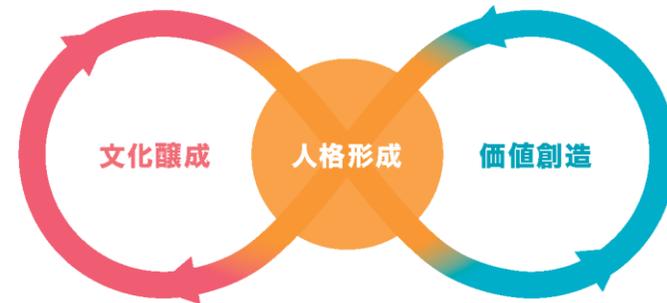
### 実施内容

1. はじめに：運営ビジョン策定のプロセス、第1回委員会での議論を踏まえた、ミッション（使命）案について説明

2. **テーマ①「デザイン経営の考え方を基に、久保惣記念美術館の強み・アイデンティティを深める」**

- ▷ 「これこそが「久保惣記念美術館」の時代を超えて変わらない本質だ」という点を明らかにするため、  
「価値創造（やってきたこと、実績）」について語りながら、  
「根っこにある久保惣らしさ＝人格」、  
「久保惣の内部スタッフや外部ネットワーク、仲間＝文化」  
を、各学芸員の体験や日ごろの想いを基に発言頂いた。
- ▷ 10年後未来の姿を描くため、「10年後どんな人が久保惣記念美術館を利用しているか」について意見交換を行った。

デザイン経営の好循環モデル(特許庁)



3. **テーマ②「ミッション(使命)に向け、この10年で特に取組むべき必要のあること」**

- ▷ 論点シート記載・コンセプト(取組方針)について、7つのカテゴリーを基に、**特に注力すべき具体的取組(上位3つ程度)とその理由**について発言頂いた。

4. クロージング：参加の感想、とりまとめ

文化醸成	人格形成	価値創造
<p><b>○学芸員のもつ力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員のネットワーク(収蔵品のもつ力が後押ししている)</li> <li>展示品の貸借は学芸員自らが動いて交渉、人的ネットワークを形成している</li> </ul> <p><b>○国内の美術館・博物館とのネットワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の貸借が、展覧会のヒントになり、館名の拡がりに繋がっている</li> <li>他館との共同企画展の実施</li> </ul>	<p><b>○収蔵品の強さ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国宝、重要文化財(青磁 鳳凰耳花生 銘万声、枯木鳴鶉図等)があり、古美術品の質が高い</li> <li>まとまったコレクションがある、寄贈者への敬意を払い散逸させない</li> </ul> <p><b>○作品の多彩さ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古美術以外にも、西洋美術(印象派 睡蓮など)、東洋美術など多彩な美術品を有する</li> </ul> <p><b>○研究・調査の確かさ：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別展、作品借用、作品調査</li> <li>久保惣記念美術館として「恥ずかしくない」学術的な担保</li> </ul> <p><b>○美術館の建物・庭園・茶室</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本館、新館の建物×デンマークのデザインチェア(和洋折衷)</li> <li>ラウンジから眺める庭園の美しさ</li> <li>表千家の写しの茶室惣庵・聴泉亭(登録有形文化財)、茶室庭園(登録記念物)</li> <li>お茶に関する普及活動の実施</li> </ul>	<p><b>○常設展(収蔵品展)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収蔵品を活かした、独自企画の展覧会の実施と発信</li> <li>日本絵画、浮世絵、中国の工芸等「久保惣と言えば」のイメージの定着</li> <li>子どもたちが自分たちの住む市ではじめて出会う、感じる美(本物の美術品)</li> <li>子ども向けの解説(浮世絵の展覧会)</li> </ul> <p><b>○特別展(自主企画)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他館・個人コレクターからの協力</li> <li>多彩な収蔵品を活かしたオリジナル、唯一無二の特別展</li> </ul> <p><b>○館内で過ごす時間</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和風建築(泉州しころ)の中で過ごす、時間の贅沢さ</li> <li>憩いの時間(特にラウンジ、新・本館)</li> <li>館内に音楽ホール、お茶室、教室、ギャラリーがあり、多様な過ごし方ができる</li> </ul>

課題

- 学芸員の人数増加、専門分野の充実→人数が展覧会の多様性に比例する
- 後継の学芸員の確保：金工品、中国美術等
- 本来業務である調査・研究のしづらさ、他業務で十分な時間が取れない

—

- ミュージアムグッズの開発(商品開発のプロが入り、外からの目線での開発が必要)
- カフェ、レストランの運営
- 広場の活用
- 多目的に利用できるスペースの確保

将来の姿【どんな人にとって欲しいか等】

**○研究の場、ネットワーク強化**

- 研究者が展示室見学、研究棟・図書室を利用し交流(かつては、勉強会を開催していた)

**○企業・個人の社会貢献**

- 久保惣の精神を継承した、企業・個人(コレクター)の地域貢献の仕組み(例：中山道広重美術館・スポンサー制度、ニューヨーク近代美術館(MoMA)・ユニクロ・フリー・フライデー・ナイト)

**○「らしさ」を失わないために**

- (開館当初)久保家からの寄贈をもって東洋美術からスタート→
- (初期～)経験豊富な学芸員の尽力により展覧会の礎が固まり、その後、日本絵画、浮世絵のカラーも加わった。
- (現在)40年の積み重ねにより、業界内で一定の評価、位置を占める→
- (今後)礎を活かした新機軸が必要

**○ふらっと来れる場づくり(多様な主体×多様なアクティビティ)**

- 近所の人等和泉市民(若い世代、親子)や大学生(桃大等)が気軽に利用(カフェ、マルシェ等)
- 高齢者がのんびりと作品を楽しむ
- ペア、カップル等、アートを見て非日常を楽しむ

**○中高生の学びの機会・場づくり**

- 市内中高生が授業の一環として見学

○テーマ②「ミッション(使命)に向け、この10年で特に取組むべき必要のあること」：コンセプト(取組方針)7つのカテゴリーを基に整理

丸内：7つのカテゴリー

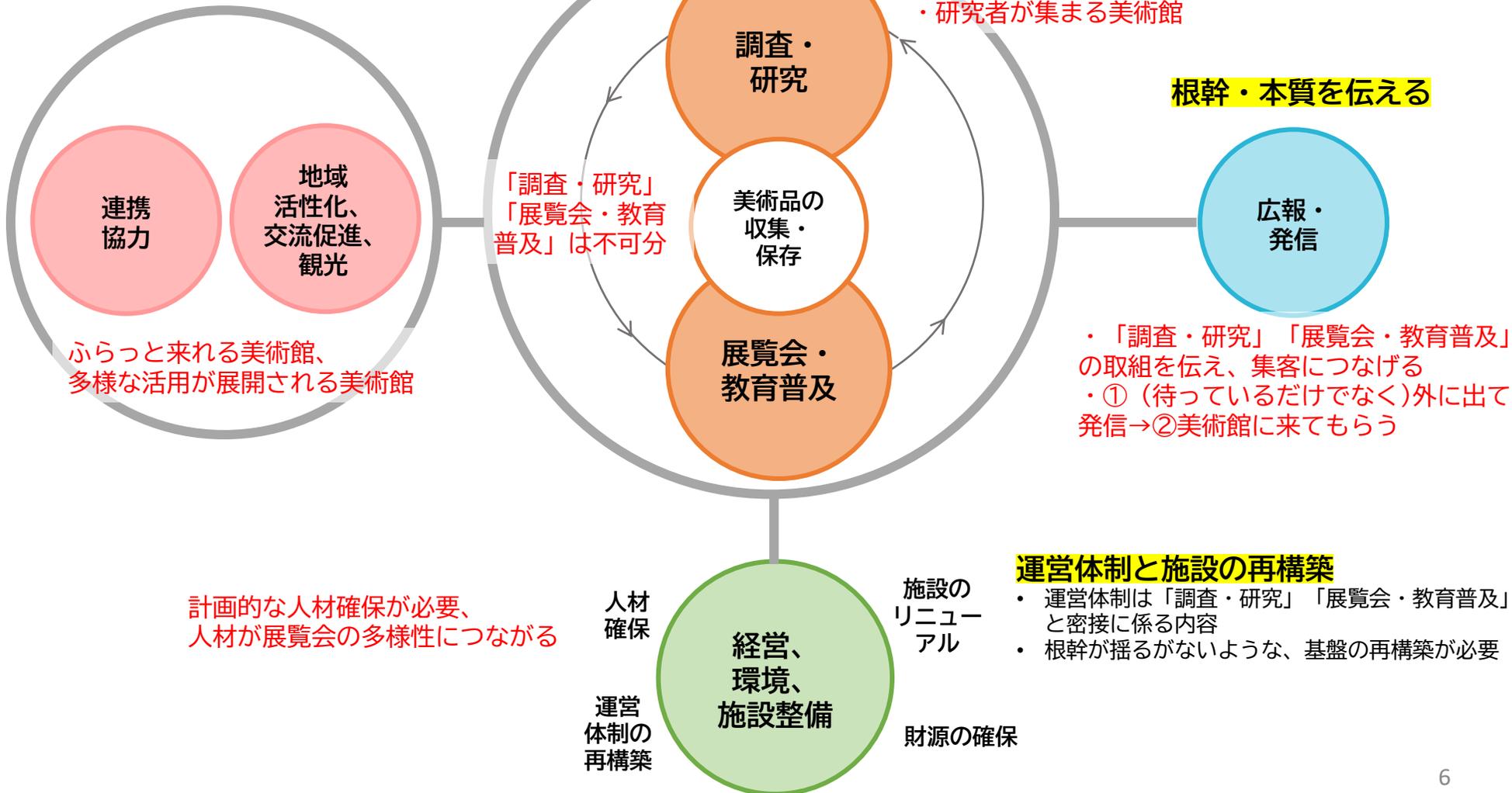
※赤字：ヒアリングで出た意見

### 久保惣記念美術館の根幹・本質

- 40年の歳月と共に、築き、磨かれてきた根幹となる部分であるが、時代の変化、施設の老朽化、学芸員の入替り等により、在り方や方向性の見直しが必要となっている

### 地域・社会との多様な関わり

- 多様な主体による、多様なアクティビティが展開される美術館が求められている



## 久保惣記念美術館運営ビジョン策定に係る 美術館の運営状況アンケート調査へのご協力をお願い

平素より当館の事業にご尽力いただきまして、ありがとうございます。

久保惣記念美術館は、2022年に開館40周年を迎え、開館50周年を見据え、これまで作り上げた美術館の伝統を繋ぎ、未来に向けて新たな価値を市民と共有し歩みを進めるため、今年度運営ビジョンを策定に取り組んでいます。

本調査は、運営ビジョン策定に伴い、類似美術館の運営・取組状況を把握することで、当館の取組方針や今後の取組内容に活かしていくことを目的に実施するものです。※調査結果につきましては、ご回答いただいた美術館が特定できない形で、運営ビジョンの別添資料として公表予定です。またご回答いただいた美術館には、調査結果を提供させていただきます。

業務多忙のなか、ご面倒をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解のうえご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査実施については、当館の管理のもとで、運営ビジョン策定支援業務受託者(株式会社ダン計画研究所)が実施致します。ご不明な点などございましたら、以下にお問合せくださいますようお願い申し上げます。

### 〔回答にあたって〕

- ・ 内容が多方面にわたりお尋ねしますが、各館におきまして分担を決めていただき、当該の質問について最も詳しい部署・ご担当においてご回答ください。また、可能な限りすべての質問にお答えください。
- ・ 回答は、特に指示をしたものを除き、2024年9月現在でご回答ください。

### 回答方法：①、②どちらかの方法でご回答をお願いします。

- ①本調査票に回答いただき、同封の返信用封筒にて返送。
- ②インターネットの回答用のサイト：<https://forms.gle/CFyG6Q9t27zHDCEGA>  
(Googleフォーム)にアクセスしWEBで回答。右の二次元コードからアクセスください。



### 回答の期限

2024年9月30日(月)です。お手数ですが、それまでにご回答(ご返送)をお願いします。

### 〔本調査についてのお問合せ〕

- 実施主体：和泉市教育委員会 生涯学習部 久保惣記念美術館(担当：奥山、後藤)  
〒594-1156 大阪府和泉市内田町三丁目6番12号 TEL:0725-54-0001
- 調査実施会社：株式会社ダン計画研究所(担当：上岡、田村、宮尾)  
〒540-0037 大阪府中央区平野町1丁目1-8 エレハントビル8階 TEL:06-6944-8751

## I. 基本情報

問1 貴館の名称をご記入ください。

--

問2 貴館の開館年月をご記入ください。

西暦	年	月
----	---	---

問3 貴館の特性について、館を代表する収蔵品のジャンルをご記入ください。(自由記述)

--

問4 貴館の設置者について、当てはまるもの 1つ に○を記入ください。

1. 都道府県	2. 政令指定都市	3. 政令指定都市以外の市、 (ア) 東京特別区
4. 町	5. 村	6. 組合(※)
7. 地方の独立行政法人	8. 公益財団法人、公益社団法人	9. 一般財団法人、一般社団法人
10. 上記8・9以外の非営利法人	11. 民間企業	12. 個人
13. その他(具体的に)		

※地方自治法第1条の3第3項の規定による「地方公共団体の組合」

問5 運営形態について、当てはまるもの 1つ に○を記入ください。

1. 直営		
2. 委託(指定管理含む)	(1) 全部委託	(2) 部分委託
3. その他		

問6-1 貴館としてのビジョン(独自の目的・使命)の設定がありますか。当てはまるもの 1つ に○を記入ください。

1. ある →問6-2へ	2. ない →問7へ
--------------	------------

問6-2 「独自の目的・使命」をどのような形で一般の人々に示していますか。次のうち、あてはまるもの すべて に○をつけてください。(複数回答)

1. 館のパンフレットへの記載	2. 館の年報への記載	3. 館の広報誌への記載
4. 館のホームページへの記載	5. 特に示していない	
6. その他(具体的に)		

問7 令和5年度の年間入館者数をご記入ください。

	人
--	---

問8-1 来館者数増加に向けた取組を実施されていますか。

1. している →問8-2、8-3へ	2. していない →問9へ
--------------------	---------------

**問 8-2** 実施している取組・成果について、それぞれ当てはまる項目 **1つに✓** をご記入ください。

取組項目	①成果あり	②どちらとも言えない	③成果なし	④実施していない
a) 広報活動の増強	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b) 学校への働きかけ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c) 各種団体への働きかけ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d) 特別展（企画展）の積極的開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e) 観光コースへの組み込み	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f) 招待券・割引券の発行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
g) 講座やワークショップなど 教育普及活動の積極的実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
h) 他の館園との連携	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
i) 来館者動向調査の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
j) 年間パスポートの発行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**問 8-3** その他効果のあった具体的取組について、自由にご記入ください。

**問 9** 収蔵点数・内訳についてご記入ください。

収蔵点数	点
(内訳)	
絵画	点
版画	点
書	点
彫刻	点
金工	点
陶器	点
木・漆工	点
石・玉	点
織染	点
骨牙	点
その他(上記に分類できないもの)	点

## Ⅱ. 組織人員・体制

**問 10** 職員等の人数についてご記入ください。

1. 学芸系職員	常勤( )人・非常勤( )人
2. 1のうち学芸系であると同時に事務・管理系職員	常勤( )人・非常勤( )人
3. 事務・管理系職員	常勤( )人・非常勤( )人

**問 11-1** 職員研修(外部機関の行う研修への派遣・参加)の実施について、当てはまるもの **1つ** に○を記入ください。

1. ある →問 11-2 へ	2. ない →問 12 へ
-----------------	---------------

**問 11-2** どのような機関が行う研修に派遣・参加しましたか。あてはまるもの **すべてに** ○をつけてください。(複数回答)

1. 文化庁、国立博物館など国の機関が行う研修	2. 日本博物館協会、学会など、全国レベルの専門団体が行う研修
3. 都道府県庁、都道府県立博物館、都道府県博物館協会など都道府県や地域レベルで行われる研修	4. 大学・大学院が実施するリカレントプログラム等の研修
5. 相互派遣など、他の館への派遣研修	
6. その他(具体的に)	

**問 12** ボランティアの運営への参画はありますか。当てはまるもの **1つ** に○を記入ください。

1. ある	(1) 有償 (2) 無償 (3) 活動内容によって異なる
(ボランティアの活動内容について、自由にご記入ください。)	
2. ない →問 13-1 へ	

**問 13-1** 業務効率化に向けたデジタル化の取組を実施されていますか。

1. している →問 13-2、13-3 へ	2. していない →問 14 へ
------------------------	------------------

**問 13-2** 実施している取組・成果について、それぞれ当てはまる項目 **1つに** **✓** をご記入ください。

取組項目	①成果あり	②どちらとも言えない	③成果なし	④実施していない
a) キャッシュレス機の導入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b) デジタルチケットの導入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c) デジタルサイネージ(館内外を問わない)の導入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d) バーチャル(映像)展示の導入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**問 13-3** その他効果のあった具体的取組について、自由にご記入ください。

--

### Ⅲ. 施設

**問 14** 建物の建築年、リニューアル時期をご記入ください。

建築年 : 西暦	年	リニューアル時期 : 西暦	年
----------	---	---------------	---

**問 15-1** 設備、老朽化の問題はありますか。当てはまるもの **1つ** に○をご記入ください。

1. ある →問 15-2、15-3、15-4へ	2. ない →問 16へ
--------------------------	--------------

**問 15-2** 建物・設備の老朽化の状況について、当てはまる項目 **1つ** に✓をご記入ください。

劣化度	1(軽)	2	3(普)	4	5(重)
1. 建物(耐震性・漏水など)	<input type="checkbox"/>				
2. 空調・給排水設備(トイレ含む)	<input type="checkbox"/>				
3. 電気設備	<input type="checkbox"/>				
4. 展示室内(照明含む)	<input type="checkbox"/>				

**問 15-3** 休館を伴う大規模修繕やリニューアルの予定はありますか。当てはまるもの **1つ** に○をご記入ください。

1. ある	令和	年	月	～	令和	年	月頃
2. ない							

**問 15-4** 老朽化又はリニューアルを考えるに至る具体的な課題について、ご自由にご記入ください。

--

**問 16** 収蔵庫の状況(利用状況、環境・設備)について、それぞれ当てはまるもの **1つ** に○をご記入ください。

(収蔵庫の利用状況)		
1. 5割未満	2. 7割未満	3. 9割未満
4. 9割以上(ほぼ)満杯の状況	5. 収蔵庫に入りきらない収蔵品がある	
(環境設備)		
1. 十分な温度湿度環境、設備を実現している。		2. 十分な温度湿度環境、設備を実現できていない。
収蔵庫の状況(スペース、環境・設備)の具体的な課題について、ご自由にご記入ください。		

**問 17** (公立館のみ)お答えください。設置者が定める「公共施設総合管理計画」の中で、貴館はどのように位置づけられていますか。今後、5年以内の計画について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 建替え	2. 現状のまま、存続	3. 改修・修繕等を実施し、存続
4. 用途の変更	5. 民間への譲渡	6. 廃止(建物の民間への貸付・譲渡・売却、解体)
7. その他(具体的に)		

#### IV. 企画展

問 18-1 特別(企画)展の開催はありますか。当てはまるもの 1つ に○をご記入ください。

1. 開催している →問 18-2、18-3、18-4へ	2. 開催していない →問 19へ
------------------------------	-------------------

問 18-2 開催頻度・日数について当てはまるもの 1つ に○をご記入ください。

(開催頻度)	
1. 毎年、1回以上 → ( ) 回	2. 1～2年に1回程度
3. 3～4年に1回程度	4. その他→何年に1回程度 ( ) 年
(日数)	
1回あたりのおおよその開催日数→ ( ) 日	

問 18-3 平成 29 年度～30 年、令和 5 年度 (3 カ年、※コロナ禍を除く) に実施した企画展の平均的な費用について、ご記入ください。

平均：	円/件
-----	-----

問 18-4 平成 29 年度～30 年、令和 5 年度 (3 カ年、※コロナ禍を除く) で、最も来館者数が多かった企画展の内容と、その時の広報の工夫について、自由にご記入ください。

問 19 平成 29 年度～30 年、令和 5 年度 (3 カ年、※コロナ禍を除く) に実施した貸出展の実施件数(各年)について、ご記入ください。

平成 29 年度：	件	平成 30 年度：	件	令和 5 年度：	件
-----------	---	-----------	---	----------	---

#### V. 体験

問 20-1 体験型の取組を実施していますか。当てはまるもの 1つ に○をご記入ください。

1. している →問 20-2へ	2. していない →問 21-1へ
------------------	-------------------

問 20-2 平成 29 年度～30 年、令和 5 年度 (3 カ年、※コロナ禍を除く) に行った、体験型の独自の取組内容や工夫している点、今後実施予定の取組について、自由にご記入ください。

(例：子ども向け美術館内で絵を描く、夏休みの創作支援等)

## Ⅵ. 観光インバウンド対応

**問 21-1** 観光インバウンド対応の取組を実施していますか。当てはまるもの **1つ** に○をご記入ください。

1. 実施している →問 21-2へ	2. 実施していない →問 22-1へ
--------------------	---------------------

**問 21-2** 実施している取組・成果について、それぞれ当てはまる項目 **1つに✓**をご記入ください。

取組項目	①成果あり	②どちらとも言えない	③成果なし	④実施していない
1. 周辺の施設・店舗を案内するマップへの掲載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 半券提示による、周辺の施設・店舗の料金割引	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 近隣の施設で企画する周遊バスへの参加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 国・自治体の観光部局や観光協会との連携・情報共有	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 旅行会社が企画したツアーの受入れ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 国家資格である「通訳案内士」の入館に関する優遇措置（入館料の減免等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 写真撮影のスポット設置など、入館者のSNS発信、口コミを増やす試み	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 外国語対応の独自ウェブサイトや、他の観光サイト等での情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. ウェブ上の口コミサイトなどを使った利用者の感想・評価の把握とそれに基づく改善	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 外国語の館内・展示案内パンフレットの用意	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. 外国語の展示解説文、キャプション、パネルの掲示	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. 外国語の解説シートの掲示・配布	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13. 外国語の解説端末（文字で表示したり、音声を流したりする端末。スマートフォン・アプリを含む）の用意	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14. 外国語で応対できる案内スタッフの配置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15. 外国語によるガイドツアーの実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16. 外国語による体験の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**問 21-3** 上記の具体的内容や効果の詳細、今後実施予定の取組等についてご自由にご記入ください。

## Ⅶ. 広報・情報発信

**問 22-1** 広報活動について実施している取組・成果について、それぞれ当てはまる項目 **1つに✓**をご記入ください。

取組項目	①成果あり	②どちらとも言えない	③成果なし	④実施していない
1. 友の会・後援会等、館の関連団体を通じた広報	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 学校へのポスター、チラシの配布	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 学校や教員の集会・会議等に出かけて行つての説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 社会教育施設や社会教育団体へのポスター、チラシの配布	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 地方公共団体の広報誌への掲載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 新聞・雑誌への広告掲載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. テレビ・ラジオCMの放送・放映	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 新聞・雑誌、テレビ・ラジオへのプレスリリース・広報依頼	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 車内、駅構内等、交通機関・交通関連施設への広告掲載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. ウェブサイト（ホームページ）による広報	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. メールマガジン等、電子メールを使った広報	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. XやInstagram等、SNSを使った広報	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13. ブロガー、インフルエンサー向け内覧会の開催等、メディアと結びついた参加型イベントを活用した広報を流したりする端末。スマートフォン・アプリを含む）の用意	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14. 個人宛ダイレクト・メールの送付	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**問 22-2** 上記のうち、有償のものについて、その番号を記載してください。

--

**問 22-3** 過去5年以内に実施して有効であった取組や今後実施予定の取組について自由にご記入ください。

--

## VIII. 地域、企業との関わり

**問 23-1** 地域や企業との関わりで実施している取組について、当てはまるもの全てに○をご記入ください。

1. 地方公共団体が主催する生涯学習活動と連携した事業・活動	2. デパートや新聞社等の民間のカルチャー・スクールと連携した事業・活動
3. 住民組織や地域の自主的な学習サークルの活動との協力	4. 住民組織や地域のサークル・団体、企業等に館の施設を提供
5. 地元の企業・業者・事業所等と協賛・協力した事業・活動	6. 地元の企業・業者・事業所等がつくる団体（商店会、商工会、商工会議所、農協等）と協賛・協力した事業・活動
7. まちづくりや町の活性化を目的に、行政や市民等がつくる団体と協力した事業・活動	8. 観光協会、旅行業者等との連携・協力
9. 医療・福祉事業者等との連携・協力	
10. その他	

**問 23-2** 過去5年以内に実施して有効だった具体的取組や、今後実施予定の取組について自由にご記入ください。

--

**問 23-3** 館外各種団体との連携・協力について、貴館には次にあげる団体がありますか。当てはまるもの全てに○をご記入ください。

1. 活動目的を共有し、協力し合いながら教育事業や広報活動を行っている団体がある
2. 貴館の専門性を踏まえて、資料収集や調査研究を支援してくれている団体がある
3. 貴館を利用し、自主的な研究や情報・資料収集などを行っている団体がある
4. 貴館と協力して、館外でのアウトリーチ活動を行う団体がある
5. 館の運営を財政的に援助してくれている団体（法人の団体を含む）がある
6. 上記に該当する団体は無い

**問 23-4** 具体的な連携内容や連携先、今後の連携について自由にご記入ください。

--

## IX. 回答者様について

**問 24** 以上のご回答をいただきました回答者様の情報についてご記入ください。

お名前	
所属	
電話番号	
代表メールアドレス	

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

久保惣記念美術館運営ビジョン

使命(ミッション)案、基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案

---

# 1. ビジョン策定の背景(現状と課題の整理)

## ビジョン策定の背景(現状と課題の整理)

開館から40周年を迎えた久保惣記念美術館の今後のビジョンを検討するにあたり、SWOT分析(S(Strength)強み、W(Weakness)弱み、O(Opportunity)伸びしろ、チャンスなど社会の動き、T(Threat):競合、脅威、競合相手)によりポテンシャル・課題の整理を実施。

### プラス要因

- **収蔵品の数、質、多彩さ**：開館時の25倍となる約1万2千点。国宝2点・重要文化財が29点、やまと絵と浮世絵を中心に、その他のジャンルも充実
- **常設展、特別展に定評**：収蔵品の数、多彩さに比例し展覧会が充実。最近では他館とのコラボ特別展が人気で来館者増につながっている
- **学芸員の人的ネットワーク**：歴代の学芸員が長年培ったネットワークにより、外部展示会への貸与実績も豊富
- **空間のもつ魅力**：和モダンな建築や和風庭園、登録有形文化財の茶室等の魅力と、ショップ・ホール・ギャラリー・創作教室等機能の充実
- **企業の地域貢献の歴史**：泉州で尊敬される経済人一族・久保家から寄贈という地域貢献の歴史、唯一無二の特性
- **教育普及事業の取組**：小学生を対象とした文化芸術科学ふれあい体験事業や桃山学院大学等と連携

### リスク要因

- **来館者数の属性の偏り、平日の来館者**：50代以上が全体の7割を占め、異なる世代へのアプローチやサービス提供、旅行者、インバウンド等平日の集客の取組が必要
- **新たな収益確保**：今後のより良い展覧会の開催と来館者増加に向けては、新たな財源確保が必須
- **施設・設備のリニューアル**：開館から40年が経過し、設備の劣化や収蔵庫の狭隘化、現状の機能・利用ニーズにあった動線・配置等の問題が顕在化しており、計画的な修繕が必要
- **学芸員の人材育成・確保**：展覧会の充実や安定した運営に向けた、学芸員の調査・研究時間の確保、計画的な学芸員の人材確保・育成が必要
- **多様なセクターとの連携**：産業、医療、福祉など多様なセクターとの連携が不足
- **駅からの距離、移動手段**：和泉中央駅から約2kmの距離があり、唯一のアクセス手段であるバスの運行数が少ない

S W

O T

- **国の動き**：2023年博物館法の一部改正：他館や地域の多様な主体との連携・協力、地域活力の向上への取組み
- **デジタル技術とDXの推進**：資料のデジタル・アーカイブ化や業務のDX等、美術館の課題に対応する技術、支援の後押し（Innovate MUSEUM事業・文化庁）
- **大阪の動き**：2025年大阪・関西万博の開催、大阪・夢洲へのIRの誘致、なにわ筋線延伸による関空利用促進等、大阪の美術館の相次ぐリニューアル・新設による追い風
- **インバウンド訪日外国人の増加**：訪日外国人は増加傾向、関西空港の外国人入国者数は成田空港に次いで2番目
- **和泉・久保惣ミュージアムタウン事業**：美術館を核としたまちづくりの展開、アートのまちのブランディング
- **周辺環境の変化**：桃山学院大学やテクノステージ、大規模商業施設の立地に加え、住宅地開発も進んでいる

- **人口減少、少子高齢化**：和泉市は平成27年186,109人（国勢調査）を境に人口は減少傾向。10年後人口約17万人程度に減少、高齢化率は3割を超える見込み（和泉市人口ビジョン（令和6年度版））。来館者だけでなく運営の担い手不足が懸念
- **人気美術館との差異化**：国内外での認知度が高く、集客数もトップクラスの有名美術館とは異なる、地域の美術館が選ばれる魅力づくり・差異化・PRが必要
- **大阪、京都への観光客の集中**：訪日外国人観光客の来訪先は大阪都心部や京都市内等に集中しており、都心部以外では日本ならではの体験をメインとした観光地が選ばれている
- **来館者の多様化**：従来のメインターゲットと異なる世代や外国人等多様化する新たな来館者への対応、サービスの提供
- **美術館運営の難しさ**：人件費・物価の高騰や、ニーズの多様化、人材不足等により休館となる美術館もある

【内部環境】

【外部環境】

## 関連計画

名称	関連する主な内容
文化芸術基本法の改正（2017年6月23日施行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術の範囲を拡大、まちづくり・国際交流、観光・産業、福祉等との連携を範疇</li> </ul>
I COM京都大会2019	<ul style="list-style-type: none"> <li>「文化をつなぐミュージアム」として、博物館を文化観光、まちづくり、社会包摂など社会的・地域的課題と向き合うための場として位置づけ</li> </ul>
博物館法の改正（2023年4月1日施行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に文化芸術基本法の本質に基づくことを追加</li> <li>博物館等資料のデジタル・アーカイブ化を追加</li> <li>他の博物館等との連携、地域の多様な主体との連携</li> <li>協力による文化観光など地域活力の向上への寄与を努力義務化</li> </ul>
観光立国推進基本計画（2023年3月31日閣議決定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4次基本計画（2023～25年度の3か年対象）で、観光立国の実現に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策(1)持続可能な観光地域づくり戦略、(2)インバウンド回復戦略、(3)国内交流拡大戦略、の3つの戦略を打ち出し</li> </ul>
大阪都市魅力創造戦略2025（2021年度～2025年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点的取組み：「大阪の強みを生かした魅力創出・発信」の中に博物館や美術館の文化資源の鑑賞・体験など文化観光の推進が位置づけ</li> </ul>
和泉市総合計画（2016年度～2025年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>久保惣記念美術館と収蔵品の有効活用と魅力発信の促進、和泉・久保惣ミュージアムタウン構想の推進</li> </ul>
和泉創発プラン（2020年度～2024年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標：「共生のまち和泉」の礎づくり、持続可能な行財政運営の確立、基金残高：決算時点から10年後までの各年度末残高約30億円を確保</li> </ul>
第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（2021年度～2025年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>和泉・久保惣ミュージアムタウン構想の推進</li> </ul>
都市計画マスタープラン（2016年度～2035年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>久保惣記念美術館を中心とした周辺地域の来訪促進につながる環境づくり</li> </ul>
和泉・久保惣ミュージアムタウン構想（2016年度～2025年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念「美術館とまちが融和した質の高い空間」</li> <li>目標1：質の高い「時」を生み出す空間デザイン、目標2：機能的な交通システム、目標3：公民連携によるエリアマネジメント</li> </ul>
和泉市生涯学習・スポーツ推進計画（2023年度～2032年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習の拠点となる施設の維持管理：久保惣記念美術館の、収蔵品の適切な保存・研究・展示のための環境の整備、市民に開かれた施設としての利用拡大に向けた整備</li> <li>文化・芸術事業の推進：各種の企画展やデジタルミュージアムの拡充、専門性を活かした講座・ワークショップ（体験型学習）等の充実、他都市施設と連携した事業展開等、市民利用を促進する取組の充実</li> <li>子どもの学習・体験機会の充実：直接訪問して体験・学習する機会を提供</li> </ul>
和泉市景観計画・条例（2023年度～）	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・芸術の景観形成拠点：文化施設や歴史的・文化的資源が集積する区域</li> </ul>
和泉市観光アクションプラン（2020年度～2025年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「とき」消費を生み出す観光メニュー【インバウンド向け】：展覧会に関連した体験メニュー</li> </ul>

※概ね2025年度には、内部関連計画の殆どが更新。

内部関連計画

## 2. 久保惣記念美術館運営ビジョンの構成イメージ

久保惣記念美術館は2022年に開館40周年を迎えました。  
次の半世紀に向けてこれまで作り上げた久保惣記念美術館の伝統を繋ぎ  
未来に向けた新たな価値観を市民と共有し歩みを進める必要があるため運営ビジョンを策定します。

ミッション

美術館の  
使命役割  
存在意義

ビジョン

美術館の  
目指す姿

策定の背景 実施推進期間

コンセプト

根幹・本質の磨き上げ

(1) 美術品の収集・保存とコレクションの充実

(2) 調査・研究の充実

(3) 展覧会・教育普及の充実

根幹・本質を伝える

(4) 伝えたい人に  
「伝わる」  
広報・発信

地域・社会との多様な関わり

(5) 多様な主体との連携協力、  
パートナーシップ

(6) 地域への貢献：地域活性化、  
交流促進、観光

根幹・本質を  
支える基盤整備

(7) 経営、環境、  
施設整備

美術館の  
ビジョンを達成  
するために取り組  
む具体的な  
施策の方針

この10年で先行的に取り組むべきアクション

① 美術館を知ってもらい  
より多くの方に来て頂く  
戦略的な広報宣伝活動と  
インバウンド戦略

② 関係機関との連携  
協力により美術館を  
最大限に使いこなす

③ リニューアル計画の推進  
により、収蔵品を最大限  
活かした展覧会の開催と  
次世代につなぐ美術館

④ グローバルな文化歴史  
財産として、  
他館との連携強化と世界  
の美術館との交流促進

⑤ 組織マネジメント  
の強化と効率的で効果  
的な運営へ

美術館が社会に向  
けて発信する新た  
な価値と役割、そ  
して10年後のビジ  
ョンを掲げるため  
に論点となる項目

### 3. 基本理念(ミッション)案

- 開館から40年余りの時が流れ、昨年には博物館法も改正されなど美術館を取り巻く環境も大きく変化する中で、当美術館が有するコレクションも大きく変化し、美術館の歴史や周辺のまちづくりの変化、そして文化芸術ふれあい体験事業の成果などあらゆるリソース(資源)を用いた、これから先を見通した独自のミッションを打ち出す必要があります。
- 久保惣記念美術館のミッション(使命)は、設置条例第1条に「美術に対しての知識及び教養の向上並びに芸術の創造及び普及に資する施設として美術館を設置する。」と書かれています。
- 新たに追記しなければならない要素として、更にまちづくり、国際交流、観光、産業、福祉等の関係機関との連携協力を進め地域の活力の向上へも繋げていく必要があります。

#### 使命(ミッション)案：美術館が社会に向けて発信する新たな価値と役割とは？

##### ①多様な価値観を伝え・育む美術館：

地元企業「久保惣」からの寄贈を礎とし、芸術や文化を鑑賞する建物空間において、東洋古美術や西洋美術など多彩な収蔵品をはじめ、数寄屋の歴史を語る茶室、四季折々の庭園の姿から、文化・歴史・感性を享受することにより、多様な価値観や豊かな感性を育む機会を提供します。

##### ②創造の拠点となる美術館：

双方向のコミュニケーションを軸に、地域社会との相互交流・住民参加のほか、多様な主体との連携協力を進めることにより、新しい価値を生み出し、社会の創造性を高めることで、市民の誇りとなる拠点を目指します。

##### ③まち・人を繋げる美術館：

美術館とまちが融合したミュージアムタウンにある美術館として、アートを通じた人と人との繋がりを広げることで、「くらしの中にある美術館」としての存在意義を高め、地域の価値及び活力の向上に繋げていきます。

# 4. 基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案

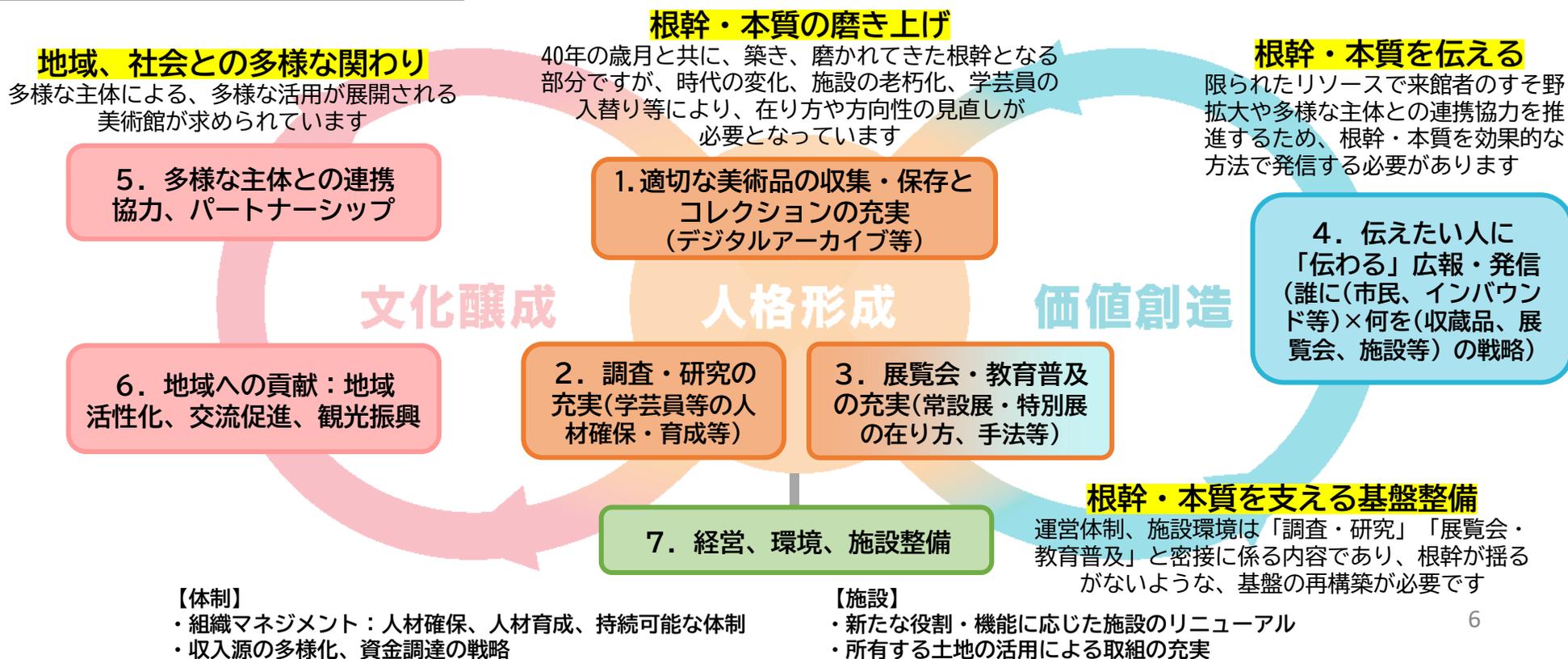
- 学芸員のヒアリング等に基づく現状・課題の整理を踏まえた今後10年の基本方針(ビジョン)：美術館が目指すべき・将来像案、取組方針(コンセプト)案を以下に整理しました。

## 基本方針(ビジョン)案：10年後美術館が目指すべき姿とは？

美術館とまちが融合したミュージアムタウンと、拠点となる美術館の魅力を伝え・育むため、「美術館のリソースを最大限に使いこなす」ことにより、持続的な成長を果たします。

## 取組み方針(コンセプト)案

デザイン経営の好循環モデル(特許庁)の考え方を基に、ヒアリング等現況調査を踏まえ整理



## 和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定に係る先行的取組ワーキンググループ会議の進め方

月	市議会	運営ビジョン 策定委員会	庁内検討組織(ワーキンググループ会議)					広報・インバウンド 部会	マネージメント強化 と運営部会	
		運営ビジョン	リニューアル 基本構想策定部会	美術館のリソースを最大限に使いこなす部会			担当×商工観光 ×広報・協働推進			担当×政策企画
			担当×建築住宅	教育との連携	市内企業 との連携	医療・福祉 との連携				
4～ 6月			<b>運営ビジョン先行的取組みワーキンググループ(WG)会議</b> 関係する市及び教育委員会の職員で構成する内部組織で、ビジョン策定委員会からの指示により、それぞれの課題について調査を行うとともに、相手方へのヒヤリング等の実施を行う。							
7～ 8月		<b>第1回策定委員会</b> ○ 美術館の現状 ○ 運営ビジョンの構成 イメージ・論点								
9月		<b>第2回策定委員会</b> ○ ミッション・ビジョン案 ○ コンセプト案	<b>第1回 WG</b> ○ 調査・現状課題 ○ 論点整理	<b>第1回 WG</b> ○ 調査・現状課題 ○ 論点整理			<b>第1回 WG</b> ○ 調査・現状課題 ○ 論点整理			
10月		<b>第3回策定委員会</b> ○ ミッション・ビジョンの 修正案 ○ コンセプトの修正案 ○ 先行的取組	<b>第2回 WG</b> 技術的な項目整理 とスケジュール調整	<b>美術館実施</b> 先生・大学との ヒヤリング実施	<b>美術館実施</b> 商工会議所との ヒヤリング実施	<b>美術館実施</b> 市民病院等との ヒヤリング実施				
11～ 12月	<b>第4回 定例会</b>	<b>第4回策定委員会</b> ○ 先行的取組み修正 ○ パブリックコメント用の 素案	<b>第3回 WG</b> 概要版の取り纏め	<b>第2回 WG</b> 関係機関との連携協力による美術館を使いこなす施策をとりまとめる。			<b>第2回 WG</b>			
1～ 3月	<b>第1回 定例会</b>	<b>第5回策定委員会</b> ○ 答申案								